
■■■■ 福祉社会学会ニューズレター第46号 ■■■■
Japan Welfare Sociology Association Newsletter No.46

<http://jws-assoc.jp/>
E-mail: ws@univcoop.or.jp

***** INDEX *****

- 第15回大会の自由報告の申し込みと予稿原稿の提出について
- 福祉社会学会第15回大会テーマセッションについてのお知らせ
- 福祉社会学会第15回大会シンポジウムについてのお知らせ
- 福祉社会学会第15回大会の事前振込について
- 現在、非会員で大会報告申し込みをお考えの方に
- 事務局からのお知らせとお願い

※この号はメーリングリストおよびWeb上での配信のみとなっています。

■第15回大会の自由報告の申し込みと予稿集原稿の提出について

福祉社会学会第15回大会が2017年5月27日(土)・28日(日)に日本社会事業大学(東京都清瀬市竹丘3-1-30)にて開催されます。大会での自由報告の申し込みについてお知らせします。

自由報告の報告時間は1人30分を持ち時間とし、20分発表、10分討論を標準としますが、申込み数によって調整をお願いすることもあります。

<自由報告申込と予稿集原稿の提出について>

自由報告を希望される方は電子メールで、以下の報告申込書と予稿集原稿のファイルの両方を添付して、2017年4月15日(土)までに以下のアドレスまでお申し込みください。

fukushi_syakai_taikai_entry-group ★kawaj@jws-assoc.jpに変えてください)

報告申込書：下記のURLにて、申込要領をご確認のうえ、申込書のWordファイルをダウンロードして、必要事項をご記入の上、ファイルにて提出ください。

http://www.jws-assoc.jp/taikai/doc/15th_callforpaper.doc

予稿集原稿：下記のURLにて「予稿イメージ図」をダウンロードの上、所定の書式にしたがってWordファイルにて作成ください。A4版×2枚の分量です。申込書とともにファイルにて提出ください。

http://www.jws-assoc.jp/taikai/doc/15th_yokou-image.doc

■福祉社会学会第15回大会テーマセッションについてのお知らせ

第15回大会のテーマセッションについては、以下の自主企画型のテーマセッション1件の応募があり、これを承認いたしました。今回は公募型のセッションはありません。

テーマセッション「退職移動－健康、介護、そして労働をめぐる－」（仮題）

コーディネーター：上野加代子（徳島大学総合科学部）

報告予定者 上野加代子（徳島大学総合科学部） 大西美智恵（香川大学医学部）

辻京子（四国大学看護学部）

日本では高齢者の地理的な移動パターンが認められにくいことが指摘されてきたが、2000年以降、日本から東南アジアへの自発的な退職移動が社会現象として観察されはじめた。さらに現在、米国のCCRC（Continuing Care Retirement Community）が日本に導入されようとしており、退職者の都市部から地方への移動を促進する日本型CCRC政策が政府主導ではじまっている。

本部会では、高齢者の地理的移動について、健康維持、介護、労働のキーワードから分析する。調査対象は、東南アジアの国際退職移動者、日本の行政主導の高齢者移住政策のパイオニア事業として位置づけられている島根県の「シルバー・アルカディア」事業、日本型CCRCなどである。報告として現時点で考えているのは次の3つである。

第1報告「退職移動と健康維持－国際退職移動者のトラジェクトリー－」では、国際移動者（第一次移動）のその後のパターンをチェンマイでの質問紙調査やインタビュー調査から類型化し、健康維持への高齢者の戦略として分析する。（大西美智恵・上野加代子）

第2報告「島根県・西ノ島市シルバー・アルカディア事業－再訪－」では、シルバー・アルカディア事業に関する行政、移住者、地元のひとたちへの聞き取り調査から、退職者の都市部から地方移住を促進する日本型CCRCの課題や困難を提示していく。（上野加代子・辻京子）

第3報告「退職移動－介護と労働－」は、国際退職者移動を参照しながら、CCRC事業にも共通する課題、そしてCCRC独自の困難を「介護」という点から検討する。そして、年金支給額の減少、介護士不足、地方からの人口流出、労働者不足などをCCRCで緩和しようとする政府の試みを、高齢者の「総労働化」政策として批判的に検討していきたい。（上野加代子・辻京子）

■福祉社会学会第15回大会シンポジウムについてのお知らせ

第15回大会のシンポジウムは、以下のようなものに決定いたしました。

「福祉社会学とソーシャルワーク研究」

コーディネーター：室田信一（首都大学東京人文科学研究科）

菊池いづみ（日本社会事業大学社会福祉学部）

報告者：副田あけみ（関東学院大学社会学部）

三島亜紀子（同志社大学社会福祉教育・研究支援センター）

竹端 寛（山梨学院大学法学部）

企画の趣旨：

本シンポジウムは、社会福祉学の研究領域の一つであるソーシャルワーク研究に着目し、福祉社会学とソーシャルワーク研究の親和性を探求し、福祉社会学としてソーシャルワークを研究することの意義について考えることを目指す。

2013年、本学会の編集によってまとめられた『福祉社会学ハンドブック』の「福祉社会学の現状と構図」の項目にて本学会元会長の武川は次のように述べている。「福祉社会学という言葉に接したとき最初に浮かぶ疑問の一つは、福祉社会学と社会福祉学との関係であろう。両者は同じなのか異なるのか。重なるところがあるのかないのか。」

自身によるこの問いに対して武川は「福祉社会学と社会福祉学は、重なる部分もあり得るし、重ならない部分もあり得る」と答えている。

実際、福祉社会学会の学術大会や学会紀要では社会福祉の研究が多数発表されている。それらの研究は福祉社会学と社会福祉学が重なった部分の研究に位置付けられるといえよう。高齢者福祉や障害者福祉などの社会福祉の現場における営みを社会学的な観点から分析する研究がそれらの多くを占める一方、社会福祉研究の主流な研究領域であるソーシャルワーク（社会福祉の援助技術）を対象とする研究は極めて少ない。

なぜソーシャルワークは福祉社会学の研究対象として扱われることが少ないのか。福祉社会学とソーシャルワークの研究を分断する要因があるとしたら、それは何であるのか。

上記のような問いを足がかりに、本シンポジウムではソーシャルワークを研究する研究者に登壇していただき、その研究方法や対象に接近するアプローチなどについて報告していただく。登壇者の報告を受けて、会場の参加者ととも福祉社会学研究者がソーシャルワークを研究する意義について考えたい。また、福祉社会学がソーシャルワーク研究に貢献することができるとしたら、それはどのような点で、それは社会福祉学による貢献とはどのように異なるのかという問いについても議論していく。

以上のような論点を通して、福祉社会学と社会福祉学の異同や、両者の研究方法の違いについて、また福祉社会学の特徴について議論が深められることを期待する。

シンポジストの副田氏は『闘争性の福祉社会学-ドラマトゥルギーとして』の中で「ケースワーカーとクライアントの葛藤関係」を執筆している。福祉社会学の視点を兼ね備えたソーシャルワーク研究者の立場から福祉社会学との接点や親和性について述べていただく。三島氏は著書『社会福祉学の〈科学性-ソーシャルワーカーは専門職か〉』の中で「科学」という観点からソーシャルワークの専門性を歴史的に俯瞰している。ソーシャルワークの理論や実践のパラダイムを対象化して分析するその研究方法は、社会福祉学と福祉社会学を架橋するものとして本シンポジウムの議論にとって参考になると思われる。最後に竹端氏は登壇者の中で唯一の本学会員で、本学会においてこれまで積極的に研究成果を報告してきている。竹端氏の研究は社会福祉の実践現場に密接に関わるものであり、本シンポジウムでは現場のソーシャルワーカーとの共同研究の

経験を参考にご発言いただく。

■福祉社会学会第15回大会の事前振込について

第15回大会の事前振込などについてお知らせします。事前振込のための郵便振替口座は以下です。

00180-7-587439 福祉社会学会第7期研究委員会

事前振込は、5月19日(金)まで受け付けます。

1 大会参加費等の事前振り込みについて

諸費用は以下ようになります。昨年度と同様に振替用紙の事前送付はいたしませんので、郵便局にて振替用紙にご記入をお願いします。入金にあたっては、一般・学生の種別と以下のコース名(またはコース番号)を通信欄に書いていただくとありがたいです。なお、当日の受付の混乱を避けるためにも、なるべく事前振り込みをお願いします。

【大会参加費】

事前振込：(一般)・3,000円、(学生)・1,000円

当日：(一般)・5,000円、(学生)・3,000円

【懇親会費】

事前振込：(一般)・4,000円、(学生)・1,000円

当日：(一般)・5,000円、(学生)・3,000円

【お弁当+お茶】事前振込のみ、1,000円(2日目のみ)

したがって事前振込の金額は以下のいずれかの組み合わせ(コース1～4)になります。なお、本年度の総会は昼食をとりながら開催しますので、お弁当の予約をお勧めします。

【事前振込金額の組み合わせ(コース1～4)】

コース1 大会参加費のみ：(コース名：参加費のみ)

費用：(一般事前振込)・3,000円、(学生事前振込)・1,000円

コース2 大会参加費+懇親会費：(コース名：懇親会のみ)

費用：(一般事前振込)・7,000円、(学生事前振込)・2,000円

コース3 大会参加費+懇親会費+お弁当：(コース名：全部)

費用：(一般事前振込)・8,000円、(学生事前振込)・3,000円

コース4 大会参加費+お弁当：(コース名：お弁当のみ)

費用：(一般事前振込)・4,000円、(学生事前振込)・2,000円

不明な点は、福祉社会学会研究委員会事務局 (fukushi_syakai_taikai_entry-group★keio.jp←★を@

に変えてください)までお問い合わせ下さい。

(福祉社会学会研究委員会)

■現在、非会員で大会報告申し込みをお考えの方に

本学会での入会の次回承認は、5月大会時に開催予定の理事会となりますが、現在、非会員で大会報告申し込みをお考えの方も以下の手続きをすることによって、報告(自由報告、テーマセッション報告)のお申込みを受け付けいたします(共同報告で、現在非会員の方が含まれる場合も同様です)。

(1) 報告は会員であることが条件となりますので、大会報告申し込み締切り時点の4月15日(土)必着にて、福祉社会学会事務局(〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学産業社会学部 鎮目真人研究室気付)宛て、入会申込書を郵送でお送りください。

なお、その際、「大会報告申し込み希望」であることを明記してください。

(2) 同時に、大会報告申込みも、申込み要領にしたがい、4月15日(土)までに、研究委員会宛て、電子メールで申し込んでください。

なお、その際、「事務局に入会申込書送付済み」を明記してください。

(3) 庶務理事ならびに理事会幹事会にて入会申込書の確認をさせていただいたうえで、仮入会の形とさせていただきます。この時点で、追加の確認事項や調整などが必要になりました場合は、庶務理事(鎮目真人)よりご連絡を取らせていただきます。

(4) 仮入会の状態にはなりますが、4月15日(土)提出締め切りの予稿集原稿をご用意いただき、研究委員会宛て、電子メールでご送付ください。5月の大会時理事会にて入会を正式承認し、ご報告いただくこととなります。

上記の諸点をご了解のうえ、現在非会員で大会報告をご希望の方は、締め切り時期までに、入会申込みならびに大会報告申込みをおこなってください。なお、上記要領は大会報告申込みのみに適用されます。

9月締め切り予定の学会誌『福祉社会学研究』への投稿資格は、5月大会時理事会での入会承認が必要となりますから、現在非会員で入会後の投稿をご予定の方はお間違いのないようお願いいたします。

■事務局からのお知らせとお願い

住所変更やEmailのアドレスを変更した場合は、必ず大学生協・学会支援センター・福祉社会学会担当(学会のメールアドレス)までお知らせください(学会のメールアドレス ws@univcoop.or.jp)。

年度末には毎回多数のメールの不着が発生します。Newsletterを受信できていない方にお気づきの場合には、お手数ですが学会アドレスまでご連絡くださいますようお願いいたします。

【発行・編集】 福祉社会学会事務局